2014/03/15

法学部入学前ガイダンス

入学までの勉学について

法学部学務部副部長・岡田康夫

・大学での学習はどんな感じ？

①自分で学ぶ

ほとんどの授業は自分で受けたいものを選び、登録します。大学が自動的に受けさせる授業はほんの少ししかありません。黙って座っていても何も起きません。

②新しい世界の学習

高校まででほとんど学ばなかった、法律学という専門分野を新しく学ぶことになります。使う道具、言葉遣い、勉強の仕方などが、今までと変わります。

③アウトプット

ゼミナール等少人数制の授業では、自分の考えを人に伝えたり、他の人と議論を交わしたりします。自分で理解するだけではなく、頭の中のことがらを外に出す、アウトプットもうまくできるようになる必要があります。

・では、どのように準備しようか？

①→自分から勉強するくせをつけましょう。今まで以上に、いろいろなことに関心を広げ、調べたり考えたりするようにしましょう。法律学は、社会を学ぶ学問です。社会の出来事に興味を持ちましょう。

課題図書は１冊だけ読んだのでしょうか？他の４冊もぜひ読んでみてください。課題図書と同じようなテーマの本が、たくさん出ています。探して読んでみてください。

②→課題図書は法律の世界への入口です。課題図書をもとに、関係する法律の本を探して読んでみるといいでしょう。そのほかにも法律学の入門書がいろいろ出ています。読んでおくと、法律を学ぶハードルを越えやすくなります。

③→今日出席した皆さんは、同じグループの人達とうまく議論ができたでしょうか？うまくいかなかったとしたら、どこに原因があるのでしょう？日本では議論の仕方をきちんと教えていないといわれています。でも議論の仕方を身につけることは大事です。下記の自主学習書を読んで、どのように話をすればもっとうまくいったのか、考えてみましょう。

なお、話すだけでなく書く訓練も。正しい漢字・正しい文法で論理的な文章を書かないと，自分の伝えたいことはきちんと相手に伝わらないのです。法律学では、国語能力が他の分野以上に重要です。

・自主学習課題

読書感想文などを提出する必要はありません。自分のために、ぜひ購入して読んでください。

福沢一吉『議論のルール』（NHK 出版）¥950+税

※東北学院大学生協土樋店で、１割引で購入できます。もちろん一般の書店でも購入できます。

推薦入試合格者感想文へのコメント（2014/03/15）

文責　法学部教授　陶久利彦

それぞれに書物と格闘をした跡が見られて、好感を持つ。ただ、自分の考えていることや感じたことを文章に表現することは、簡単ではない。詳しいことは入学後の授業で触れるとして、本日はごく基本的で形式的なことだけ注意する。

１．句読点を意識しよう。特に、読点がないと非常に読みにくい。読点を振らない人が非常に多いのに驚く。句点については、５．を参照。
２．原稿用紙の使い方を復習しよう。特に、禁則処理。
３．誤字には注意しよう。大学入学を記念して国語辞典を購入することを薦める。最近は電子辞書が普及している。とにかく、疑問に思ったら辞書を引く習慣を身につけること。
４．不適切な修飾語にも注意を払った方がいい。副詞や形容詞、特定の語と関連する表現法。何が適切な修飾語かは、自ら書物をひもとくことで覚えていくしかない。
５．一つの文章の長さは、長くて８０字程度を目安にしよう。８０字を越えてしまったら、次の文章を短くしよう。
６．「ですます調」と「である調」との混在は避ける。勿論、メリハリを利かせるために意図的に使い分ける場合は別である。
７．接続詞や動詞について、同じ表現の繰り返しは避けよう。例えば、「・・・と思います。」「・・・と考える。」「また、・・・」
８．同じような文章を何度も繰り返すのは避けよう。文章は変化をつけ且つ短くすることを旨とせよ。
９．接続詞の使い方に細心の注意を払おう。５．に述べたように、一文の長さを短くすると文章相互の関連性を接続詞によって明らかにする必要が出てくる。
１０．体言止めは避けよう。この文書にも体言止めはある。しかし、感想文や論理的文章にあっては避けるのが望ましい。
１１．主張に具体性を持たせよう。抽象的な表現だけに終わると印象が弱い。例えば、「・・・を読んでいろいろなことを学びました。」←「いろいろなこと」とは何？

以上のような注意点を自覚するために、次のようなことを薦める。

１．本を読むこと。当面は乱読でよい。ただ、生きている時間は限られているのだから、多くの人の批評眼に耐えてきた名文を読む方が望ましい。
２．原稿を何度か音読することを薦める。声に出してみると、自分の書いた文章の欠点が明らかになる。
３．他の人に原稿を読んでもらう。忌憚のない批判に耳を傾ける。